

2月号

School Aid Japan

スクール・エイド・ジャパン



Dream通信

2012. 2. No. 47

毎日の積み重ね ～みんなで学び、みんなで働く～



わからないところは教えあう (中学3年)



クラスのトップを争う子どもたち (中学2年)



休み時間は和やかにおしゃべり (中学1年)

皆さんこんにちは。最近の子どもたちは日本はどのくらい寒いのか、また雪は降るのか等、お客様や里親様からの手紙で、寒い寒いと言われる日本に興味津々です。カンボジアはそんな寒さが想像できないほど、毎日暑い日々が続いています。

さて、今回のDream通信では、最近の子どもたちの学校での学習の様子について、また乾季での農作業の進捗について、また1月中旬に来園したワタミグループ社員ツアーの様子についてお伝えします。

学校での勉強の様子

早朝6時半、制服を着て準備が整った子どもたちが続々と園の門の前に集まってきます。小さい子どもたちは眠そうにぞろぞろと集まって来ますが、大きい子どもたちは髪をとかしてピシッと決めて自分の自転車を念入りにチェックし、準備します。学年ごとに集まって点呼を取り、全員揃った学年から『いってきます！』と元気に登校していきます。

学校では園の習慣と同じように、朝礼で国旗掲揚を行い、その後授業に入っていきます。小学生は算数、国語、理科、社会の4教科ですが、中学生以上は数学、国語、物理、化学、生物、科学、歴史、公民、地理、幾何学、仏語、英語の12教科です。中学生に上がって一気に履修科目が増え、中学1年生は授業についていくのに必死です。それ以外にも農作業の時間や体育、家庭科の授業もあります。学校の授業をサポートするために、授業の予習、復習をする補習授業を設けています。

また、毎月末には学校でも園でも学力テストがあります。なので月末になると子どもたちの授業を受ける表情はいつも増して真剣になります。成績上位の子どもたちは競争心を燃やし、授業中にも解るまで先生に質問し、休み時間も勉強しています。また逆に成績のあまり優れない子どもたちには、職員から発破を掛け、授業時間以外にも特別に個別の時間を設け、全力でサポートしています。



空芯菜が青々と育つ園内農園



土を耕し、畝作り



一緒に食事をするサイハーンと里親様(中央)



言葉が通じなくても心は繋がる

農作業

園では週に4日、計6時間の農作業の時間があります。子どもたちに農作業の知識を教えることが一番の目的です。また、2時間続く農作業の時間で忍耐力、集中力を養うために行っています。孤児院の農業担当職員の飯田と、SAJFarm 職員の飯島、五月女の月2回の応援で農業を教えています。

乾季のカンボジアでは、手や足にとげが絡みついてくるような根の強い雑草がたくさん生えています。そんな大地でも子どもたちは野菜を収穫したいと、試行錯誤しながら畑を作っています。今現在園の裏の大きな畑は、雑草が茂っていますが、雑草を刈り、畝を作り、種をまいていきます。今後どんどん野菜が作れるようになれば、乾季でも農業ができるという確信が得られます。その目標に向けて、今は毎日の水遣り、堆肥作りが欠かせません。また、園内の農園では、すでに作物を作り始めています。こちらは、保母担当の職員が主体となって、子どもたちも手が空いたらお手伝いをしています。農園では、空芯菜やかぼちゃ、葉物野菜などを育てています。土を掘り起こし、畝を作って種を蒔き、毎日水遣りを欠かさず行って、農園には青々と野菜が育っています。農業は、すぐに結果が出るものではありません。毎日欠かさず作業を続けることによって、忍耐力を養うとともに、採れた野菜を自分たちで食べることで、達成感や喜びを感じて欲しいと思います。

第2回ワタミグループ社員ツアー

1月19日、ワタミグループの社員の中から32人もの希望者が「夢追う子どもたちの家」に来園しました。『渡邊理事長から話を聞いていたが、実際に自分の目でカンボジアの現状を見てみたい』、『自分で見て感じることで、他の人にも伝えられるようになりたい』、など、カンボジアツアーへの参加理由は様々です。18日から首都プノンペンを見学し、SAJFarmで農業への取り組みを見学し、19日の夕方ついに園に到着しました。園の前で子どもたちはお客様を拍手で迎え、歓声を上げました。社員の中にはユン・サイハーン、ドン・スレイノツの里親様もいらっしゃいました。特にサイハーンは初めての里親様との対面であったため、来園する前から緊張していました。そして実際に通訳を交えて話をしながら、だんだんと緊張がほぐれ、最後までずっと一緒に限られた時間を過ごしていました。前回の6月のツアー時に覚えたしぼ取りを子どもたちと社員全員で遊び、夕食も一緒にとり、会話を楽しみました。子どもたちは覚えてたの日本語や英語を駆使して一所懸命話し、会話ができた喜んでいました。

最後のお別れ会で、社員たちから日本の盆踊りを教わり、一緒に踊りました。お客様来園の際には子どもたちが園の外の大人と交流する貴重な機会です。実際に学んだ英語や日本語が活かせるので、勉強意欲にも繋がっています。たくさん話を聞いて、知らない世界のことをどんどん知って欲しいと思います。